

事業番号	09 04 24	事業改善シート (28年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	高収益型畜産推進事業			担当課	農政部		
総合5か年計画	プロジェクト			課・局・室	園芸畜産課		
	施策の総合的展開	1-3 夢に挑戦する農業 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産		E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	3-3 活力と循環の信州経済の創出		実施期間	H28 ~ H30		
	施策展開	3-(1) 経済構造の転換 ア 県内産業の競争力強化 ウ 農業の競争力強化					

1 事業の概要

目指す姿	ICT(情報通信技術)等の新たな技術の導入や飼養管理の改善等の取組みにより、畜産の競争力強化と農家所得の確保を図る。											
現状(予算編成時)	畜産における国際化の進展や国内外の産地間競争の一層の激化に対応するため、コスト削減や生産性の向上等により、本県畜産の競争力を強化することが急務となっている。											
県が関与する理由	県関与の必要性あり		【左記の説明、根拠法令等】 酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律、養豚農業振興法、家畜改良増殖法、県酪農・肉用牛生産近代化計画、県家畜・鶏改良増殖計画									
成果目標・事業内容	① 成果目標(H28)											
	ICTを活用した飼養管理に取り組む経営体:2経営体(設定理由:発情発見・分娩監視装置をそれぞれ1経営体ずつ) 優良繁殖牛選抜のためのDNA情報の解析を実施する繁殖候補牛:160頭(設定理由:中規模以上の肉用牛繁殖経営体に5頭ずつ) 繁殖雌牛の生産性向上に取り組む経営体:40経営体(設定理由:家畜保健衛生所の管轄する5地域に8経営体ずつ)											
	② 事業内容 (単位:千円)											
	項目		実施方法	H28事業実績		H28		H29				
					(当初)	(決算)	(当初)					
1 ICTを活用した効率的飼養管理モデル農場の設置		直接	ICT機器(発情発見・分娩監視装置)を導入し、それぞれモデル農場(南牧村、飯田市)に設置した。また、現地検討会にて導入効果の検証を行った。		2,460	1,823	488					
2 DNA情報を活用した優良繁殖牛選抜モデル農場の設置		直接	45戸のモデル農場を設置し、160頭のDNA解析を実施した。解析結果に基づき、各地域にて繁殖牛選抜検討会を行った。		3,858	3,197	5,759					
3 繁殖雌牛の生産性向上支援		直接	対象農場を46戸、このうち重点対象農場を9戸選定し、代謝プロファイルテスト、繁殖検診、疾病検査及び調査等を実施し、結果に基づき指導した。		846	725	846					
			合計		7,164	5,745	7,093					
事業コスト	区分(単位:千円)		27年度	28年度	成果目標の達成状況							
	予算額	前年度繰越			項目	H26末	H27末	H28			H29 目標	
		当初予算		7,164				7,093	目標	成果		達成状況
		補正予算										
		合計(A)	0	7,164	7,093	ICTを活用する経営体	—	—	2経営体	2経営体	達成	—
	Aの財源	一般財源		1,669	2,934	選抜のためのDNA解析	—	—	160頭	160頭	達成	—
		県債				生産性向上実施経営体	—	—	40経営体	46経営体	達成	—
		国庫支出金		5,226	2,252	信州プレミアム牛肉の認定頭数	—	3,242頭	—	3,477頭	—	3,700頭
		その他	0	269	1,907							
	決算額(B)		5,745									
概算人件費	職員数(人)		3.4	3.40								
	概算人件費(C)	0	26,908	26,908								
概算事業費(B(A)+C)	0	32,653	34,001									
目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用については、目標のとおりモデル農場を設置できた。また、導入により一定の効果があることを現地検討会にて報告できた。 DNA情報の活用についても、目標のとおり160頭のDNA解析を実施できた。当初は中規模農家32戸程度を想定していたが、要望が多く45戸実施した。 生産性向上支援についても、繁殖性低下要因の調査及び指導を目標のとおり実施できた。 											

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 ICTの活用及び生産性向上支援については、現行のとおり引き続き実施する。 選抜のためのDNA情報の活用については、今後も更なる効果が期待されるため、現行に加えて、平成29年度は新たに家畜改良事業団と連携した優良種畜の作出を行うこととしている。
--------------------	---